

兒童心理學文獻抄

十六

牛 島 義 友

積木と粘土細工

ハ 方向のある積み方 直線の形に並べられる。

ニ 規則的な並べ方 同じ形の積木丈とが、二種類の積木を交互に並べる等の一定の規則を以て並べられるもの
ホ 相稱的な並べ方 右左同じ形に積上げたもの
ヘ 圖面的 平面上に並べて形を作る。

ト 家等の物の形

チ 積木の集團 村や町等をこしらへるもの

以上の様な色々の積み方があるが、最も多いのは「ト」の如き形の表現であつた。併しもう少し小さい子供の場合は「ロ」か「ハ」かの積み方が多い。

ハシフマハ、子供の積木

イ 累加 積木を無選擇に無規則に並べたり積上げるもの

ロ 方向のない積み方 一つの積木を注意して並べる
が別に何の形も構成されないもの

彼は三歳から六歳までの幼児十二名宛に積木をさせた、其遣方は自由製作、口で命じたものを作らせたり、手本を見せたり、描かれた手本を用ひたり其他の方法である。

自由な積木の場合からその發達を考察して三つの段階を立てる。

一、一個宛の積み方、最も原始的な積み方は無選擇に

れかの積木を拾ひ上げて並べたり重ねたりするが、全く何らの一定の目的方向なしに積むのであつて今出来上つた形

から次の積木の場所がきまり、此の偶然の形から又次の形が規定されるといふ風に唯一個々々を積んで行くのである。或ひは唯積む事にのみ興味のある段階云つてもよい。

二、全體の形を豫想する積み方、前の様な積み方を繰り返してゐる中に子供は出來上る形を豫知し乍ら積んで行く様になる。前の場合は一つ置いてはゆつくり並べるといふ風な断片的の行動であるが、今度は目指してゐる簡単な形が出来る迄は一系列の行動として營まれる。併し此の場合の出來上つた形にはまだ意味がなく少くもはじめから汽車とか家とか云つたものを作らうといふ目的を以て作られる

のではない。故に出來上つた形を見て後から「あ、汽車が出来た」と云つたりする。

三、表現的段階、はじめから一定の物を表現しやうとして構成して行くもの

如何なるものが表現されるかを見るに家とか汽車が一番多い。

男 女

建 物

七一 六五

建物の一部(戸、階段)

九 四六

乘 物

三三 一二

家 具

三 一八

その他の事物

五 一一

生 物

二 一四

動作(歩いてゐる所等)

〇 九

子供の製作物を美的の點から眺めるに年長の子供に於ては積み方がきちんとしてゐるにか、努めてシムメトリーの形を作らんにしたり、或ひは全體的に纏りのある形にしやうとする。例へば家を作るのに一つの積み木丈を端の方に

クラウテル・學齡前兒の粘土黒Hの癡達

餘計に付けたり、不恰好な位置に置く事がなくなる。又積木に色のついてる場合には色をも考慮して並べる。併しあ適當なものがない時には色は犠牲にしても形の揃つた方をえらび、色よりも形の方が重きをなしてゐる。

次に積木をしてゐる時の態度を見るに、或る子供は一つの形が出来るごとに手を止めて眺め樂んでゐるが、他の子供は一つの形が出来ても休まず更にその上に色々の形をつけ加へてどんどん大きくなれて行く。即ち前者は構成された形に興味を持つタイプであり、後者は構成する事そのものに興味を持つ型で一般に年少な者に斯るタイプが多い。

その他手本を見せて作らす場合にも色々問題があるが立體的に積まれた手本の場合は易しいが、平面的に描かれた形を手本として作るのは遙かにむづかしい。

その他子供が積木を作る時の行動や色々苦心して手本通りのものを作らんとしてゐる工夫状態を見る。その精神状態、知能の状態が推知されるので、知能検査に用ひる事もある。

次に粘土細工の發達にも似た様な状態が見られる。

D. Krautter Die Entwicklung des plastischen Gestaltens beim vorschulpflichtigen Kinde Beih. 3. Zeit. angew. Psychol 50, 1930)

託児所に居る一歳から六歳までの幼兒五十名に自由に粘土細工をさせて研究をせたのであるが、先づ最初の發達段階から説明する。

第一期 一歳以下の中兒に粘土の塊を與へても唯それを机に叩き付けたり、拾ひ上げたりするだけで特殊な目的なしに、やうやくて居るだけである。併し其中に偶然に出来て来る形の變化に注意する様になり、自ら進むで形を變へようとする。此時先づ現れて來るのは塊から一片づゝちぎり取つて行く分節的な遣方で、いきなり丸ごとか棒を作る所作ではない。次に此ちぎり取つたものを積重ねて柱を作つたり、臺に並べてみたり、或は一列に並べて喜んで居る。此時にも未だ何か形を構成しようとして居るのではなく、唯並べてみて何か綺麗な形を作るだけで謂ば原始的裝飾をしてゐる云ふ事である。

かお家等を命名する事は未だ起らない。

て始めて作られる形で第一期の最後になるものである。

以上の時期は何を作らうとの意圖が先にあつて其形を作るのでなく、出来上つたものを後から命名し解釋するのである。規則的に押したり、投付けたりすれば其中に圓盤形のものが出来上るがそれを見るこ子供は喜んで「あゝお葉子だ」と叫んで、何度も同様なものを作らうとする之は平面的な形の基礎になるものである。圓盤の輪廓が不規則な形に出来上る。今度は大だと云つて尾をくつ付けたり目を開けたりする。

2 次には圓筒形を作る様になる。両手を同じ方向にリズミックに動かしてをれば出来て来る形で、此形からやがて木や人間や飛行船が作られて來るので立體的なもの、基本形である。

3 此圓筒を更に曲げるこ弓形や輪が出来る。

4 球を作るには手を規則的に廻さねばならないので一層發達した段階である。

5 皿形 圓盤の中央を凹ませたり、縁をまげて更に皿の形を作る。

6 六面體 之は家を作らう等の意圖が生じる様になつ

第二期 前期で圓盤、圓筒、球等の基本的製作技術を習得するこ、之を以て人とか木を作るが、繪畫の場合には人間を描くのが最も多いが、粘土の場合には其他動物、木、乗物、家、器具、食物等種々な物を作つて非常に豊富な種類が見られる。此事は粘土細工の方が描畫よりも表現が容易である爲である。又其製作したものゝ形、釣合等も繪に較べるこ遙かに客觀的なものに類似して居る。此理由は繪の場合には立體的なものを平面的に表現せねばならぬので困難であり、之に對し粘土の方には斯る困難が無い爲である。斯る故に幼稚園児の創作力を養ふ爲には繪よりも粘土を用ゆる方が適當と云ふ事が出来る。

さて然し彼等は初めからちやんとした人や犬の形を作る譯ではなく種々な段階を経なければならない。

す噴出するであらう、其處には不格好な棒が一本ぽつんと臺

の上に立てられて居る。之が最初の人間である。即ち茲では先づ對象の持つ基本的な特徴が表現される。人を現すには細長いと云ふ事、机なら平たいと云ふ事、飛行機なら翼

と胴體とが交錯して居る事が基本的特徴で、その點だけが表現されるのである。次に方向性が表される。即ち人なら垂直の位置に立てられ、犬なら同じ棒が水平に置かれる。更に發達すると水平の棒は犬の胴體を意味し垂直の小棒は四肢を意味する様になる。

次には一本の棒の代りに二個の土塊を合せた人間が製作される。上の塊は頭で下の塊は胴體である。之を頭胴人とな名付くれば、其他頭足人も居る。此段階は前より更に細かな特徴が表現されるが、其遣方は質的に精密化して行くではなく色々なものを量的に附加して行くのである。人には手足が附加され、木には枝が、飛行機にはプロペラが附加されるので、附加される胴體は以前と同じ不格好な棒なのである。此の不恰好な棒の位置とか方向によつて手足或ひは動作が立派に表現される。之によつて彼等の抱いてゐ

るものゝ本質が表現されるのである。

此の頃になると子供はカリカチュアを作つてその想像を喜ばせたりする。例へば長い鼻をつけ天狗さんが出來たと云つたりする。

以上の積木と粘土細工は子供の表現力を涵養するに適してゐる。併し子供は間もなく思ふものが作れないもので、即ち表現技術が不充分の爲に意圖してゐるものを製作出来ないので悩む。此の場合必要な製作技術は粘土の場合は確實にして精緻な指の動きで、之から藝術製作に發展していく。積木の場合には安定にして發展性のある積み方である。積木の要素を多分に含む。